

【「解答を書く力」とは何か？】

口頭試験と記述式試験との違いから「解答を書く力」について解説します。

1. 「解答を書く力」とは

解答を書く力とは、「頭の中に浮かんだ解答を文に変換する力」と「内容が明確に伝わる文を書く力（文の作成力）」を合わせた総合力のことです^{注1)}。別の表現をすると、解答を書く力とは、頭の中に浮かんだ解答を形にして答案用紙に書く力のことです。

注1)：正確には、解答を書く力には「1分で理解できる解答を書く力^{注2)}」も含まれますがここでは前者だけを対象にします。

注2)：「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の『“1分で理解できる解答”の書き方』の概要』の資料を参照のこと

2. 口頭試験と記述式試験の違い

口頭試験は、頭の中に浮かんだ回答を言葉で説明します。記述式試験は、頭の中に浮かんだ解答を文字で書きます。

言葉で説明する場合には、頭の中に浮かんだ回答を言葉に変換して説明するだけです。文字で書く場合には、頭の中に浮かんだ解答を文に変換してから書く必要があります。

言葉で説明する場合は、言葉の語数に制限はありません。文字で書く場合は、文字数に制限があります。

また、記述式試験は、口頭試験より問われていることが複雑です。例えば、「技術者としての立場で多面的な観点から3つ課題を抽出し、それぞれの観点を明記したうえで、課題の内容を示せ」のようなことです。

つまり、言葉で説明するより文字で書く方が難しいです。

3. 記述式試験の難しさ

記述式試験は難しいです。記述式試験には「文に変換する」という作業があるからです。この作業は、「頭の中に浮かんだ解答をどのように文に変換したらよいか」について文字数の制限範囲内で考えることです。

例えば、「3つの課題のうち1つ目の課題は少子高齢化について3行程度で書こう」と考えたとします。次に、少子高齢化の課題について3行程度で書く内容を考える必要があります。

また、頭の中で文に変換したことを具体的な文で答案用紙に書く必要があります。このとき、

内容が明確に伝わる文で解答を書く必要があります。例えば、「短い文で書く」、「修飾語と被修飾語の対応が明確な文を書く」のようなことです。「一文が100文字を超えるような文」や「修飾語と被修飾語の対応が不明確な文」では内容が明確に伝わりません。つまり、試験官に解答が明確に伝わりません。

【6つのルールと18の書き方】

ルール		書き方と内容	
ルール6	明確に伝わる文を書く	書き方13	具体的な文を書く
		書き方14	意味が明確な文を書く
		書き方15	能動態の文を書く
		書き方16	短い文を書く
		書き方17	肯定文を書く
		書き方18	文法を守って文を書く

4. 解答を書く力は総合力

これまでの解説から、「解答を書く力は総合力」ということがわかります。すなわち、解答を書く力は、『頭の中に浮かんだ解答を文に変換する力』と『内容が明確に伝わる文を書く力（文の作成力）』を合わせた力」ということです。

「解答を書く力＝文を書く力（作文力）」ではないことを認識すべきです。

【参考図書】

森谷仁著、「マンガでわかる技術文書の書き方」、オーム社、令和4年3月25日

以 上